

# 窓辺

「チヨウの世界」

あんどう  
安藤 隆敏  
たかとし

からの自然観

かれています。

このような変化を記録しておくためにカメラ撮影を始めました。種ごとの個性的な生きざまは、生物の多様性というものを教えてくれています。

また、完全変態とは体の組織を一度死なせ、新たな組織をつくるという変化です。この変化を引き起こす物質があるのではと考え、モンシロチヨウの幼虫から抽出した液を基に、がん細胞に働く薬の開発が行われているそうです。身近な自然の中には、科学の芽が無限にあると改めて感じています。

自然観察をライフワークとしてきた私が、最も重点を置いた分野は「チヨウの世界」です。植物や昆虫など自然についてまるで知らなかったころ、手ほどきを受けた先輩から「チヨウを詳しく知るには、関連する植物のことも知らなければならぬ」と言われま

しても、幼虫は食草が合わなければ受け入れずに餓死することを選択します。そのため、植物との関係から自然というものをより正確に見るようになるのです。

した。

ご承知の通り、チヨウは完全変態をする昆虫です。卵から数段階の幼虫、蛹まゆ、成虫と姿を変えます。平安時代後期の堤中納言物語「虫愛あつる姫君」の中にも、幼虫が変化していく様子こそが本質として、「成長していく様子を見よう」と書

きました。

チヨウは食草と違って、種ごとに幼虫の時に食べる植物が異なります。たとえば人間の目には似ていると見

ていく様子を見よう」と書